

2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会 に向けた京都からの日本文化の発信について

【担当省庁】文部科学省、文化庁

京都府では、2020 年に向けてオール京都の力を結集して「京都文化フェア」(仮称)を開催するなど、文化庁文化芸術創造都市振興室(関西分室)とも連携しながら文化の力による地域活性化に取り組んでいくこととしており、これを推進するため、国において、以下の措置を講じていただきたい。

京都府・京都市共同提案

「京都文化フェア」(仮称)の東京オリンピック・パラリンピック大会「文化プログラム」への位置付け

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の「大会開催基本計画」に基づく「文化プログラム」等の重点事業に、京都で開催する「京都文化フェア」(仮称)を位置付けていただきたい。

キックオフ事業として 2016 年 10 月に京都と東京で開催される「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」については、関連する市民参加イベントの開催を支援していただくとともに、日本文化の粋が集まる京都を通じて、その魅力を国内外に強力に発信していただきたい。

「文化庁文化芸術創造都市振興室」(関西分室)の継続設置と機能強化

平成 28 年 3 月に設置期限を迎える文化庁文化芸術創造都市振興室を、引き続き関西広域連合の観光・文化の事務局を担う京都府に継続設置するとともに、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた関西における「文化プログラム」の実施拠点として体制及び予算を強化していただきたい。

「国立デザイン工芸美術館（仮称）」の京都設置

京都には、伝統的な意匠やデザインがあり、有形・無形の国宝等が蓄積されていることから、これらを後世に残し、さらに発展させるために「国立デザイン工芸美術館（仮称）」を京都に設置していただきたい。

京都府・京都市共同提案

「古典の日フォーラム」をはじめ「古典の日に関する法律」の精神を踏まえた国主催事業の全国展開

11月1日（古典の日）に京都で開催する「古典の日フォーラム2015」に国が主催者として参画いただくなど、「古典の日に関する法律」の精神を踏まえた取組を全国展開していただきたい。

【現状・課題等】

2020年文化プログラムの具体化を見据えた推進体制

「京都文化フェア呼びかけ」に基づく推進委員会

千玄室氏（茶道裏千家前家元）をはじめとする5名の文化人の呼びかけを受け、平成26年10月6日、オール京都の推進委員会を立ち上げ、本年秋に基本構想を策定予定



委員 長	： 長尾 真 元京都大学総長	スケジュール		
副委員 長	： 山田知事、門川京都市長、立石 義雄 商工会議所連合会長	2015年	夏	基本構想中間案公表
ワーキング座長	： 佐々木 丞平 京都国立博物館長		秋	基本構想の策定
委 員	： 文化・観光・学術関係の有識者 30名	2016年	春	実行委員会設立
目 的	： 基本構想策定等			

文化庁文化芸術創造都市振興室（通称：文化庁関西分室）

経 過：平成19年1月 「関西元気文化圏推進・連携支援室」を京都国立博物館内に設置

平成24年4月 京都府庁日本館に移転

平成26年4月 「文化芸術創造都市振興室」に名称変更
（設置期限：平成28年3月31日）

室 長：佐々木雅幸同志社大学特別客員教授

活動内容：文化芸術創造都市の推進

2020年文化プログラム実施に向けた対応

関西元気文化圏の推進

古典の日推進事業の展開 < 古典の日フォーラム 2015 の概要 >

趣旨：古典の日推進委員会のメインイベントとして開催。「古典の日」推進活動をさらに展開し、全国及び全世代への普及・定着を図る。

日時：平成 27 年 11 月 1 日（日）

場所：国立京都国際会館メインホール

概要：（予定）・古典の日宣言

- ・主催者挨拶、講演
- ・パネルディスカッション

写真：昨年のフォーラムから



国立デザイン工芸美術館

日本におけるデザインの重要性や、ヨーロッパのモダンデザインの源にもなった日本のデザインの「歴史」、建築やプロダクト、ファッションなど様々な分野でのデザインの紹介など、日本のデザインとものづくりの魅力と意義を伝えることを目的とした、国内初の「国立デザイン工芸美術館」の京都における設置

「国立デザイン美術館」設立趣意書

日本にはすばらしいデザインの歴史と今があります。
ヨーロッパのモダンデザインの源にもなった「歴史」。
そして、建築、プロダクト、グラフィック、ファッションなど、
世界を魅了するさまざまなデザインの「今」。
デザインは、私たちの暮らしを整え、楽しみや喜び、
安心と心地よさを与えてくれるだけでなく、産業や経済を活性化し、
生活の豊かさをもたらしてもくれます。
こうした日本のデザインを集大成し、その魅力と意義を伝え、
未来の創造力を確かなものにする「国立デザイン美術館」を
今こそ作りましょう。
第一に、日本が誇る伝統と技術を再確認し、
我が国に自信と活気をもたらすために。
第二に、日本を訪れる海外からの人々に
「これが日本文化の最前線、そして底力だ」と呈示するために。
第三に、すぐれたデザインを継続してアーカイブし、日本の財産とし、
次世代に継承するために。
第四に、諸外国のデザインミュージアムと連携して
人類の創造力をさらに高めるために。
現在の日本が持てるデザイン力と技術力を尽くして、
新しい美術館像を創り出しましょう。
ときめき、いのちの鼓動、未来への勇気、
限りないやさしさ、愛することへの執着。
「国立デザイン美術館」を満たすさまざまなデザインは、
私たちにそんな驚きと喜びをかならず届けてくれます。

国立デザイン美術館をつくる会
三宅一生 青柳正規

（出典：「国立デザイン美術館をつくる会」HP）

【京都府の担当課】

文化スポーツ部	文化政策課	075-414-4217
	文化芸術振興課	075-414-4219
	文化交流事業課	075-414-4279